

今日のみことば

□ 10月29日(日) レビ記 19章

ここには色々な律法記されているが、そのすべては「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」(18)に要約されている。律法は消極的なものではなく積極的のちの充実を意味する

□ 10月30日(月) レビ記 20章

律法への不従順に対する罰が列記されている。広範囲にわたる違反が死をもって罰せられる。しかしそれは神の聖なる律法に対する故意の違反、人々に対する違反についてである。

□ 10月31日(火) レビ記 21章

神の民がすべての悪から聖別されなければならないとするなら、まして祭司をやである。彼らは神に対して清くならなければならない。

□ 11月1日(水) レビ記 22章

肉体的な欠陥を持った者は何人であれ、祭司として奉仕することは出来なかった。また犠牲にささげられる動物も無傷のものであること。また生後8日を経たものでなければならない。

□ 11月2日(木) レビ記 23章

ここには「聖なる会合」と呼ばれる「例祭」が記されている。週ごとの安息日のように七つのパターンを反映しており、神が創造において七日目を聖なる日とされたことを指し示す。

□ 11月3日(金) レビ記 24章

ここでは二つの定期的が義務、ともしびを絶えずともすことと、安息日ごとに12個パンをささげることについて述べられている。

□ 11月4日(土) レビ記 25章

七年周期の安息の年と五十年周期のヨベルの年は共に安息日の原理を拡大延長したものであるが、イスラエル宗教の高貴な精神を行為に表したものとうして重大な意味を持つ。

ろ ぼ No. 1839
2017年 10月29日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヘブル 4:12

というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して心の思いや考えを見分けることができるからです。

「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です」(詩篇119:105)との詩篇の言葉は、心にしっかり刻みつけられています。聖書を読んでその人生を変えられた人を多く知っています。その一人はあなたご自身です。今ここにおられるのがその証拠です。

マルティン・ルターは修道僧でした。中世のクリスチャンは自分で聖書を読むことは出来ませんでした。修道僧ルターは聖書が読め、自分で読んで神さまの御心を知って行動を起こしました。それから500年が経過しました。ルターの宗教改革と言われます。

その後聖書は閉じ込められたものではなくになりました。いのちをかけた人たちによって聖書は、みんなのものとなり、自分たちの言葉

でこれを読むことが出来るようになりました。私たちはこの聖書をどのように受け止めているのでしょうか。リンカーンは「私は聖書を、これまでに神が与えた最上の賜物と信じる。世の救い主から発する一切の良きものは、この書を通してわれわれに伝えられる」と言いました。ワシントン「神と聖書なしにこの世を正しく統治することは不可能である」と言い、テニソンは「聖書を読むこと、そのことが教育である」と言いました。日本人がどのように聖書と出会ったか「聖書を読んだ30人」(日本聖書協会刊)で読むことが出来ます。内村鑑三の「聖書は一書でない三書である。聖書と天然と歴史である」との言

葉を読み、一つの思いを聞かせていただきました。

私はパウロがテモテに教えた「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。」(テモ第二3:16)との言葉を受け止める者です。今日聖書についての文献研究等が盛んで、様々な成果が告げられています。聖書の歴史的背景も忘れさせていただくことは出来ませんが、聖書は混じり気のない神の言葉であると信じています。私はそこに立たせていただくことによって初めて聖書が、聖書であると言うことが出来ると思っています。

私はふと、愚かなことを思ったことでした。それは聖書を唯一の規範としてその人生を導くのは、ある国の指導者が、自分の思想に統一した国作りを考えることに見立てたことでした。しかしそれはとんでもない誤りであることに気づかさせられました。出発点が全く違います。私たちは万物の主であるお方の導きの中に生かされている一人一人です。しっかりその御心を受け止めて生きいるかです。聖書はその神さまの御心をしっかりと私たちに伝えてくれますから、しっかりと読み解き、聞きとらなければなりません。これは最も大事なことです。聖書のみ言葉は普遍です。

聖書はしっかりと「神は愛である」と語り続けます。それは天地創造の初めから変わることはありません。御子キリスト・イエスの十字架の死はその極みでした。聖書はそのことを私たちに語り、それを受け止めて、最高の幸せを受け取るようにと伝えます。私たちクリスチャンは、この喜びの知らせを伝える責任を負わせていただいているのです。

————— 《 聖書の学び・祈禱会 》 —————

イザヤ 40:1-8 約束の道

イザヤ書を前半(1-39章)と後半(40-66章)に分けて理解することは、イザヤ書のメッセージを理解する助けとなる。前半はくさばきのことば>、後半はく慰めにことば>となる。

アッシリヤに滅ぼされ、バビロン捕囚で苦悩の中にあるイスラエルの民に「慰めよ、わたしの民を慰めよと／あなたたちの神は言われる」とイザヤは語りました。主の民の罪の苦しみから解放するために、主なる神はその大能をもって来られる。主の先駆者が主の道を備えるために遣わされるという喜びの預言です。

単にバビロン捕囚からの解放が告げられるだけではなく、神の罪の赦しの一方的宣言が告げられる。また、それを受け入れるようにとの招き、その確かさが神の言葉の中にだけ、基礎づけられているとの保証からなる慰めのメッセージです。人間のからだは草木と同様にいのちをなくせば消えていく、しかし神の言葉は永遠に絶えることはない。



Read God's Word.